

2 (4) 実践事例 (A校第4学年)

(イ)「学習問題を設定する場面」における授業の質的改善

公開授業の記録と考察 (10月実践)

本時の目標

有田焼に関する資料や写真についての気付きや疑問をもち、学習問題を考え、表現することができるようにする。 【社会的な思考・判断・表現】

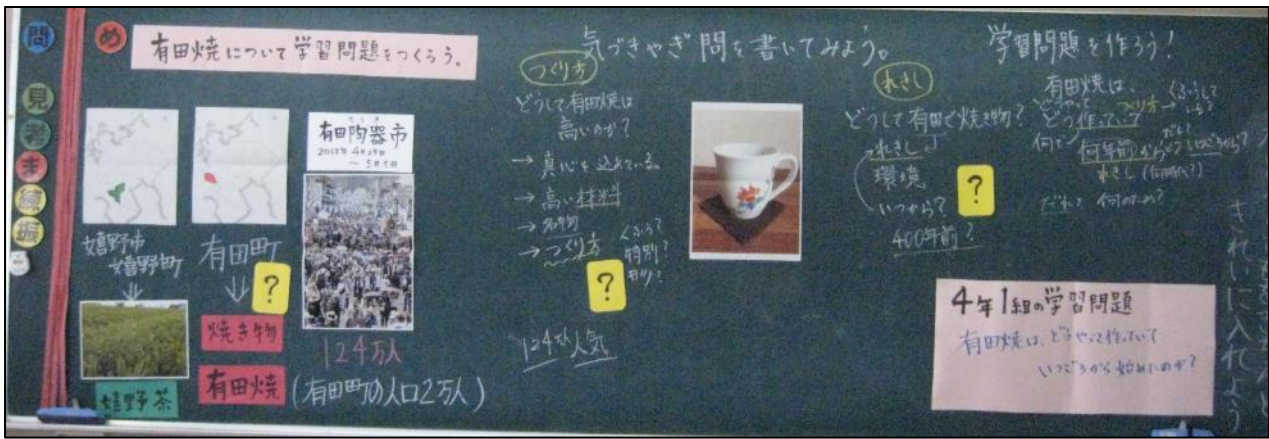
本時に取り入れる手立て (記号, 番号は質的改善の手引きと対応。○は, 手引きにはない手立てを示す。)

- A⑥自分の考えをもちやすい場面 (予想など) で, 自分と相手の意見が同じか違うか考えさせながら対話をさせる。
- 学習問題を記述することができた児童全員に発表させ, 共通するキーワードに焦点化していき, 全体の学習問題として設定する。
- 個人の疑問が全員の問題意識へとつながるように, 「みんなはどう思う?」などと全体に問い掛ける。

本時の授業の様子

学 習 活 動	授業の様子 (T…教師, C…児童) 質的改善を図った手立て (ゴチック)
<p>1 有田町に関する写真を見て, 気付いたことを交流する。</p>	
<p>2 本時のめあてをつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>めあて 有田焼について学習問題をつくろう。</p> </div>	<p>A⑥自分の考えを持ちやすい場面 (予想など) で, 自分と相手の意見が同じか違うか考えさせながら対話させる。</p>
<p>3 有田焼に関する資料や写真を通して気付いたことや疑問に思ったことを書いて, 話し合う。 (個人→ペア→全体)</p>  <p>【気付きや疑問を交流している様子】</p>	<p>T: では, 友達と交流してみましょう。</p> <p>C1: 私の疑問は, どうして有田焼と100円均一の焼き物はこんなに値段が違うのかということです。</p> <p>C2: 分かりました。ぼくは, 少し違って有田焼はどうやってつくっているのかを疑問に思いました。</p> <p>C3: 私の気付きは, 有田焼は白っぽくてツルツルしているということです。</p> <p>C4: 私は, 有田焼のつくり方を知りたいと思いました。</p> <p>C3: ぼくも同じことを思いました。</p>

<p>4 気付きや疑問を基に学習問題をつくる。</p>	<p>○個人の疑問が全員の問題意識へとつながるように、「みんなはどう思う？」などと全体に問い掛ける。</p> <p>T: C2さんが言ったように、つくり方が何か特別なんでしょうか。みんなはどう思いますか？ C: つくるときに工夫していると思います。 T: どのような工夫？ C: 特別なやり方。 T: なるほど。他にも意見がある人はいますか？ C: 形に工夫がある。 T: 形のつくり方に何か秘密があるということですね。同じ焼き物でも値段が違う・・・調べてみないと分からないね。</p> <p>○学習問題を記述することができた児童全員に発表させ、共通するキーワードに焦点化していき、全体の学習問題として設定する。</p> <p>T: 学習問題を書いた人は、立って発表しましょう。同じようなものが出たら座りましょう。 (※大半の児童が立ち上がり、次々に発表していく。) C: 私は、「有田焼はどうやってつくっていて、何年前から始まったのか」です。 C: 「有田焼はどういうつくり方で、どんな歴史があるのだろう」です。 C: ぼくは、「有田焼はだれが何のためにつくっているのだろう」です。 C: 「なんで有田焼は有名なのだろうか」です。 C: 私は、「どうして有田焼は高いのだろう」です。 (※全員が次々と発表をしていく。) T: クラスで一つ学習問題をつくりましょうか。 C: 有田焼は・・・ T: どのような言葉がみんなの学習問題の中にたくさん出てきたかな？ (児童が次々とつぶやく。) C: つくり方。 C: 歴史。いつからか。 T: すると、学習問題は「有田焼はどうやってつくっていて、いつ頃から始められたのか」でいいですか。 C: はい！</p>
-----------------------------	---



【本時の板書】

本時の成果と課題 (○成果, ●課題)

- 本時の学習問題につながる2つのキーワード(「つくり方」「れきし」)に関する疑問は、全体に疑問を投げ掛けて考えさせることで、一人一人の問題意識として広がりをもたせることができた。学習問題を自らの問題として捉えさせるための手立てとして有効であった。(※「みんなはどう思う？」などと全体に問い掛けたり、考えを記述した児童から発表を促したりすることで、児童全員が授業に主体的に参加することにつながるということが分かった。しかし、これらの手立ては全教科・領域等の授業づくりに関わる手立てであると考えるので、本研究が提案する「質的改善を図るための手立て」としては特に取り上げることはしない。)
- 気付きや疑問を全体で交流する場面においては、児童は活発に自分の考えを発表していた。これは、全体交流前のペア対話において、A⑥の手立てを取り入れたことで児童の問題意識を高めることにつながったからだと考える。
- 児童の問題意識を高め、学習問題を自分事として捉えさせるためには、本時のように調べていきたいことを学習問題として書かせる時間を設定することが必要だと考える。
- 「つくり方」と「れきし」という2つのキーワードを使って学習問題を作ることができた児童は半数程度であった。キーワードを意識させる手立てが必要であった。



次単元に取り入れる手立て(記号, 番号は質的改善の手引きと対応。○は, 手引きにはない手立てを示す。)

- A⑧ 調べていきたいことを学習問題として書かせる。
- 全体で出た気付きや疑問を基につくったキーワードを意識させて、個人の学習問題をつくるように声掛けをする。